

昭9
B
80

昭和9年3月8日

東京市政調査会
展覧寄贈

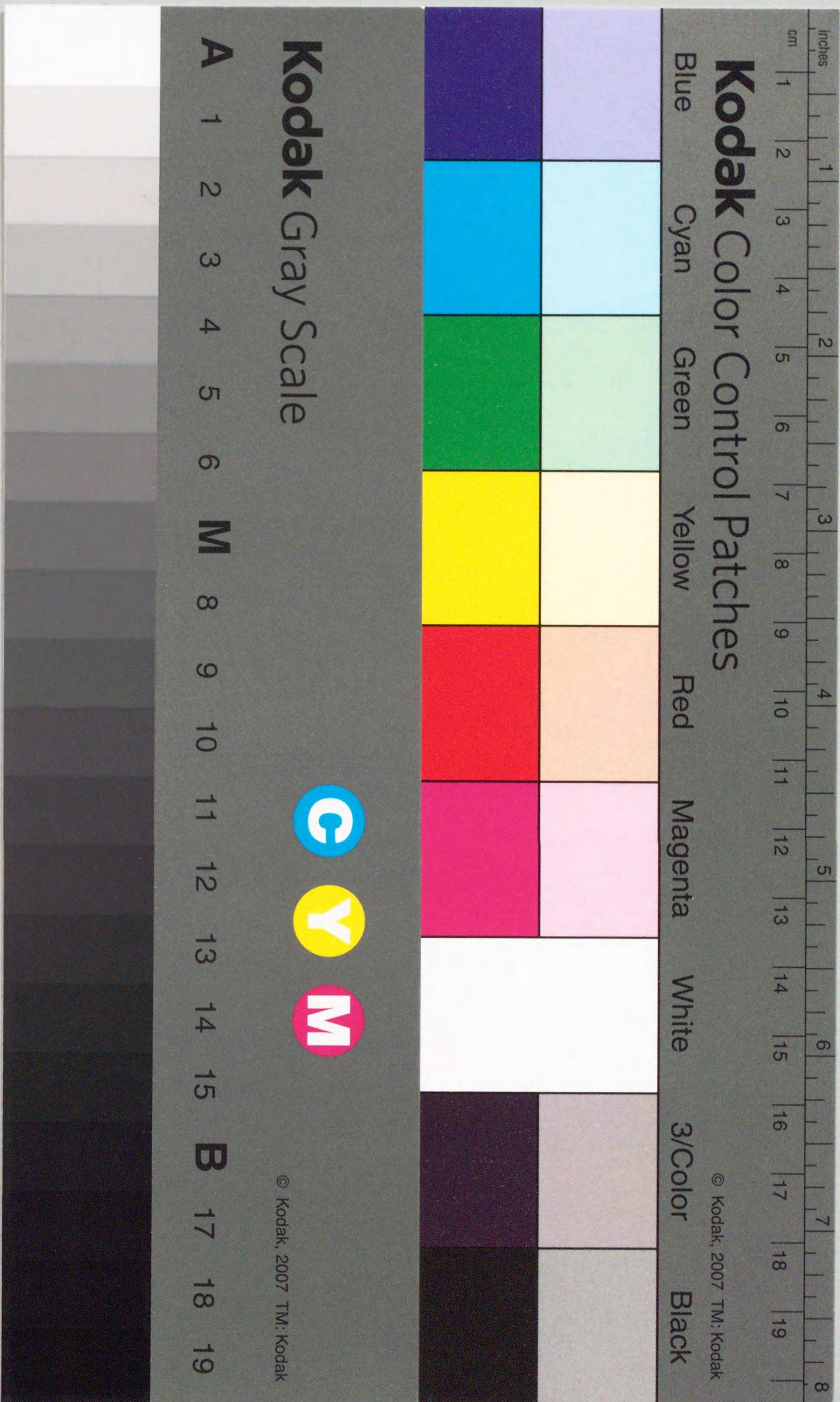
實業補習教育改善ニ關スル意見

財團法人

東京市政調査會

立憲民政黨
政務調査館

昭9
B
80



本建議書、意見書並ニ理由書ハ都市實業補習教育改善ニ關スル本會調査書、東京市ノ實業補習教育ト共ニ昭和三年六月二十一日文部、商工兩大臣、東京府知事並ニ東京市長ニ夫々提出シタルモノニシテ、斯問題研究者ノ參考ニ資スル爲メ茲ニ印刷公表ス。猶便宜上京都、大阪、横濱、神戸、名古屋ノ各市長宛差出シタル書狀ヲモ併セ載録セリ

目次

- 一 文部大臣ニ提出シタル建議書並ニ理由書……………一
- 二 商工大臣ニ提出シタル意見書……………七
- 三 東京府知事ニ提出シタル意見書並ニ理由書……………一一
- 四 東京市長ニ提出シタル意見書並ニ理由書……………一九
- 五 京都、大阪、横濱、神戸、名古屋ノ各市長ニ差出シタル書狀……………二九

一 文部大臣ニ提出シタル建議書竝ニ理由書

實業補習教育改善ニ關スル建議

本邦實業補習教育ノ組織及ビ制度ニ就テハ遺憾ノ點尠カラズ速カニ之ガ改善ノ途ヲ講ズルノ要アルニ鑑ミ本會ニ於テ調査研究ヲ行ヒタル結果其主要事項ニ關シテハ左記ノ結論ニ到達仕候

一、實業補習學校ハ各特殊ノ職業又ハ科目ニ從テ組織シ、職業科目ノ教授ヲ徹底充實セシメ、生徒ヲシテ成ルベク自己ノ從事スル職業ニ付キ稍高等専門ノ教育ヲ受クルヲ得セシムル様改ムベキコト

一、小學校卒業後直ニ職業ニ就カントスル者ニ對シテハ實業補習教育ヲ受クルノ義務ヲ負ハシムベキコト

一、以上二項ヲ實現スル爲ニハ國家ハ市町村義務教育費國庫負擔ノ例ニ則リ之ガ

經費ヲ負擔スベキコト

右ハ全國都市ハ勿論地方町村ニ於テモ等シク其必要ヲ痛感スルモノト被存候

此ノ外校舎及ビ設備ノ管理監督其他訓練養護學校衛生及ビ教員ノ任用竝ニ養成等ニ關シテモ缺クル所多々有之様認メラレ候得共前記諸項ハ實業補習教育ノ改善充實上根本的要件ト存候間何卒御詮議ノ上速カニ御實施相成度切望ニ不堪別紙理由書竝ニ本問題ニ關スル本會ノ調査研究ヲ錄セル参考書等相添此段及建議候也

昭和三年六月二十一日

財團 東京市政調査會

會長 子爵 後 藤 新 平

文部大臣 勝 田 主 計 殿

添 附 書 類

一、理由書

一、東京市政調査會調査「東京市ノ實業補習教育」

一、商工大臣ニ提出シタル意見書寫

一、東京府知事ニ提出シタル意見書竝ニ理由書寫

一、東京市長ニ提出シタル意見書竝ニ理由書寫

理 由

一、本邦實業補習教育ハ創始以來茲ニ三十五年ヲ經過シ、生徒數ヨリスレバ小學校ニ次グノ優位ヲ占ムト雖モ、其ノ内容ニ至リテハ幾多ノ缺陷ヲ包藏シ、所期ノ目的ヲ達センニハ猶未ダ前途遼遠ノ感ヲ深カラシムルモノアリ。是レ畢竟一般學科ノ補習ニ

止マリ、生徒各自ノ職業ニ適應セザルモノ多キカ、又ハ其ノ職業科目ノ不徹底ナルニ因由スルモノト認メラル。今之ヲ東京市ニ付テ見ルモ、一區ノミニテ、市民一千人以上從事スル重要職業ハ全市ヲ通ズレバ、五十種ニ上ルニ拘ラズ、實業補習學校ニ於テ組織的ニ教授スル後期課程以上ノ職業科ハ僅カニ十三種ニ過ギズ。故ニ生徒ガ自己ノ職業ニ必要ナル學科ノ教授ヲ要望スルハ寔ニ故アリト謂フベキナリ。サレバ實業補習學校ハ各特殊ノ職業又ハ科目ニ從ヒ分科的ニ組織シ、之ヲ充實徹底セシメ、以テ稍高等專門ノ職業教育ヲ授ケ得ル様改善スルヲ急務ナリト認ム。

一、實業補習教育期ニアル男女青年ハ工場、商店又ハ家庭ニ雇傭セラルル者頗ル多キガ故ニ假令學校ノ組織ヲ改良シ設備ヲ完成シ優良教員ヲ配置シ、以テ教授ノ刷新ヲ圖リタリトスルモ、此等青年男女ノ入學ヲ強制スルニ非ザレバ、多數青年ヲシテ容易ニ實業補習學校ニ就學セシムルコト困難ナルヤ言ヲ俟タズ。サレバ實業補習學校教育ハ之ヲ義務制ト爲スニアラザレバ其目的ヲ達スルヲ得ザルベシ。

一、本會ノ調査ニ依レバ、補習學校ニ收容スベキ男女青年ハ、東京市ノミニテモ其ノ數十萬人ノ多キニ及ブ。今小學校ノ義務年限延長後滿四箇年ノ義務實業補習教育制度樹立セラレタリト假定センニ、東京市ニ於テ右十萬人全部ニ對シテ夜間教授ヲ爲ストスレバ、假用校舍ノ爲メ特ニ施設スベキ臨時費約百萬圓ヲ要スベク、以後毎年經常費トシテ約四百萬圓ヲ要スベシ。斯ノ如キ相當巨額ナル經費ヲ市ノ負擔ト爲スハ少クトモ現時ノ事情ノ下ニ於テハ不可能ナラン。其他ノ自治團體ニ於テモ亦同様ナルベシ。サレバ實業補習學校ヲ職業専門的ニ改メ、之ヲ義務制ト爲シ、以テ斯教育ノ充實ヲ圖ラントセバ、其根本方策トシテ、國家ハ市町村義務教育費ノ例ニ據リ、之ガ經費ヲ負擔スルヲ妥當ナリト信ズ。

一 商工大臣ニ提出シタル意見書

實業補習教育改善ニ關スル意見

産業ノ振興ヲ圖ルノ方途ハ多々可有之候得共之ニ從事スル勞務者就中産業軍ノ下
士兵卒ニ該當スル多數國民ノ其産業ニ關スル知識及ビ技能ノ練磨ヲ促進スルハ特ニ
肝要ノ事ト存候之ガ爲メ成年者ノ教育ノ忽ニスベカラザルハ勿論ナレ共未成年者ニ
對シ必要ナル基礎的教育ヲ授クルハ頗ル緊要且ツ有効ニシテ又比較的容易ナルモノ
ト被存候是レ各國ノ夙ニ實業補習教育ノ發達ニ努力セル所以ニシテ本邦ニ於テモ亦
三十五年間之ガ促進ニ努力シ來リタル事御熟知ノ如クニ御座候然ルニ本邦ノ實業補
習教育殊ニ都市ニ於ケル商工補習教育ハ現在甚シク行詰リノ状態ニ在リ教育者竝ニ
爲政者ハ之ガ打開ニ苦メルガ如キ觀有之候

而シテ斯ノ如キ現狀ヲ打破センガ爲メニハ之ガ根本ニ關スル精密ナル調査ヲ行ヒ

且ツ其由テ來ル所ヲ明カニシ以テ之ガ改善ノ策ヲ樹ツルノ要アルベク乃チ本會ハ此ノ見地ヨリ東京市ヲ中心トシテ本邦ニ於ケル都市實業補習教育ノ現狀ヲ詳細ニ分析シ更ニ六大都市ニ於ケル實狀ヲ比較考查シテ之ガ改善充實ニ關スル方途ニ付攻究罷在候處此度別冊ノ如キ成果ヲ得申候

實業補習教育ノ改善充實上最モ緊要ト存ゼラレ候事項ニ關シテハ之ヲ文部大臣ニ建議スルト同時ニ東京府市當局ニ對シテモ夫々卑見ヲ開陳シ之ガ施設實行ヲ切望致置候得共斯教育ハ産業ノ發展ト緊密ナル關係ニ在リ貴省ニ於カレテモ夙ニ御留意相成居候處ニハ御座候得共此際何卒之ガ實現促進ノ爲メ特ニ御配慮相煩度切望ニ不堪前記本會調査書竝ニ各當局ニ提出シタル意見書等相添此段卑見及具陳候也

昭和三年六月二十一日

財團 東京市政調査會

會長 子爵 後 藤 新 平

商工大臣 中橋 德五郎 殿

添 附 書 類

- 一、東京市政調査會調査「東京市ノ實業補習教育」
- 一、文部大臣ニ提出シタル建議書竝ニ理由書寫
- 一、東京府知事ニ提出シタル意見書竝ニ理由書寫
- 一、東京市長ニ提出シタル意見書竝ニ理由書寫

三 東京府知事ニ提出シタル意見書竝ニ理由書

實業補習教育改善ニ關スル意見

實業補習教育ノ振興ニ關シテハ夙ニ銳意御盡力相成居其成績亦見ルベキモノ有之
様被存候得共深ク之ガ内容ヲ省察スルニ於テハ尙遺憾ノ點尠カラザルガ如ク功虧一
篲ノ感有之候而モ世運ノ進展ハ實業補習教育ノ改善充實ヲ須臾モ忽ニスルヲ許サザ
ルモノアルニ鑑ミ本會ニ於テ之ガ調査ヲ行ヒタル結果東京府ニ於ケル斯教育刷新ノ
爲メニハ特ニ左記諸項ノ實現ヲ以テ急務トスルノ結論ニ到達致候

- 一、實業補習學校ノ組織ヲ改メ可成の職業専門的タラシムルコト
- 一、職業青年ノ實業補習學校入學獎勵上適當ナル方法ヲ講ズルコト
- 一、實業補習學校ノ教授、訓育、養護ノ方法施設ヲ改善シ設備ノ充實ヲ圖ルコト
- 一、商工業補習學校教員ノ養成機關ヲ設置シ教員ノ優遇ノ途ヲ講ズルコト

一、實業補習學校ノ監督ヲ嚴ニスルコト

何卒右諸點御詮議ノ上速カニ施設實行セラレシコトヲ切望シ別紙理由書竝ニ本問題ニ關スル本會ノ調査研究ヲ録セル參考書等相添此段卑見及開陳候也

昭和三年六月二十一日

財團
法人 東京市政調査會

會長 子爵 後藤 新平

東京府知事 平塚 廣義 殿

添附書類

一、理由書

一、東京市政調査會調査東京市ノ實業補習教育

一、文部大臣ニ提出シタル建議書竝ニ理由書寫

一、商工大臣ニ提出シタル意見書寫

一、東京市長ニ提出シタル意見書竝ニ理由書寫

理由

一 實業補習學校ノ組織ヲ改メ可成の職業専門的ナラシムルコト

現時實業補習教育ガ一般ニ徹底セズ、寧ろ輕視セラルル所以ノモノハ、前期ニアリテハ教授ノ内容竝ニ其ノ程度區々ニ流レ、統一ヲ缺クト、後期以上ニ於テハ、職業科ノ種類極メテ少ク、専門的學習ノ不便ナルトニ基因スル所多シ。サレバ其ノ組織ヲ改メ、系統ヲ整ヘ、青年ヲシテ自己ノ職業ニ適應セル教育ヲ受ケシメ、以テ各其志ヲ遂ゲシムル様努メザルベカラズ。東京府ハ夙ニ各種ノ實業補習學校ヲ設置シテ、他府縣ニ示シ、又全國ニ率先シテ工業補習教育ニ關スル組織系統案ヲ發表シ、次デ詳細ナル訓令ヲ發

シテ實業補習教育ヲ準義務制ト爲ス等、其ノ努力大ナルモノアリシト雖モ、大勢ハ依然トシテ舊態ヲ脱セザルモノノ如ク、之ヲ職業専門的ニ經營スルトコロ甚ダ少キヲ遺憾トス。之ヲ東京市ノ實際ニ徴スルモ、一區内ニ一千人以上從業スル重要職業ハ、全市ヲ通ズレバ五十種ノ多キニ達スレドモ、實業補習學校ニ於テ組織的ニ教授スル後期課程以上ノ職業科ハ僅ニ十三種ニ過ギズ。斯ノ如クンバ如何ニシテ充分ノ効果ヲ舉グルヲ得ンヤ。

東京市既ニ然リトセバ、爾餘市町村ノ狀況ハ略之ヲ察知スルヲ得ン。要スルニ實業補習學校ハ須ク之ヲ職業専門的ニ組織シ且其系統ヲ整へ以テ生徒ノ要求ニ適應セシムベキモノト信ズ。

一 職業青年ノ實業補習學校入學獎勵上適當ナル方法ヲ講ズルコト

教育内容ノ充實ハ自ラ生徒ノ入學ヲ増加セシムル所以ナリト雖モ、此ノ外凡ユル手段ヲ盡シテ積極的運動ヲ試ミ、生徒ノ入學ヲ獎勵スルハ、現在ノ制度ニアリテハ當然ノ措置ナリトス。殊ニ東京市ニ於テハ、補習教育期ニ在ル青年男女ノ數ハ約十萬ヲ算スルニ拘ラズ、現在補習學校ニ在學スル者ハ僅ニ一萬餘人ニ過ギズ。故ニ義務入學制ナラザル今日ニ於テハ、特ニ入學ヲ獎勵スルノ必要アルモノト認ム。而シテ入學獎勵方法ノ二三ヲ舉グレバ、雇傭主ニ對シテハ斯教育ニ對スル理解ヲ促シ、卒業生優遇ノ途ヲ講ゼシメ、卒業生ニ對シテハ檢定ニ應ジテ地位ノ上進ヲ圖ラシメ、希望者ニハ職業ヲ紹介スルガ如キ之ニシテ、若シ之ヲカメントスレバ、尙幾多ノ適當ナル方法ヲ發見スルヲ得ン。嘗テ故井上知事が親シク管下ノ實業補習學校ニ莅ミテ職員生徒ヲ激勵スルヤ、其効果著シク、職員生徒ノ發奮精勵ヲ促シタルハ勿論、實業家竝ニ爲政家亦之ニ盡瘁シテ、斯教育ノ發展極メテ顯著ナルモノアリタルノ事實ニ鑑ミルモ、誠ニ適切ナル就學獎勵ノ必要ヲ痛感セザルヲ得ザルナリ。

一 實業補習學校ノ教授訓育養護ノ方法施設ヲ改善シ設備ノ充實ヲ圖

ルコト

學校ノ組織確立セズ、且職業専門的ナラザルガ故ニ、生徒ノ種類自ラ雜駁トナリ、爲メニ生徒ノ要求ニ合致セントスレバ、教授要目ノ編纂上頗ル困難ヲ來シ、優秀ナル教員ト雖モ教授ヲ完フスルハ容易ノ業ニアラザル状態ナリ。而カモ教員ノ大部分ハ小學校ヨリ兼任セル者ナルヲ以テ、専心補習教育ノ爲メニ盡サシムルヲ得ザル境地ニ在リ。教育上充分ノ効果ヲ舉グル能ハザルハ當然ノ歸結ナリトス。又生徒中ニハ年嵩者ヲ含ミ、從來ノ修養亦一定シ居ラズ。而カモ夜間短時間ノ授業ナルガ故ニ、概シテ訓育ノ不徹底ナル、實狀默視シ難キモノアリ。最近體操教練ヲ課スルモノ漸次増加シ來レリト雖モ、之寧ロ青年訓練所ノ關係ニ基ケルモノニシテ、必ズシモ生徒體育上ノ見地ヨリスルモノニアラザルガ如シ。加之生徒身體ノ發育不良ニシテ、疾病缺陷ノ多キニモ拘ハラズ、從來養護方面ハ兎角顧ミラレザル傾向アリ。身體検査ノ如キモ一般ニ行ハレザルノミナラズ、縱令之ヲ行フ所アリトモ、之ニ基キテ養護上努力スルモノ殆ド之ナシト謂フモ過言ニアラズ。若シ夫レ設備ニ至リテハ、次第ニ整頓セラレツツアリト雖モ、

之ヲ完備シタル小學校ニ比スレバ到底同日ニ論ズベキ程度ノモノニアラズシテ、必要缺ク能ハザル實習教室實習機械ヲ始メ、照明煖房ノ不完全ナルハ勿論、食堂ノ備スラ之ヲ有セザルモノ多シ。苟クモ學校ヲ經營シ、教育ノ實ヲ舉ゲントスル以上、斯ル不都合ナキ様速カニ之ガ改善ノ途ヲ講ゼザルベカラザルナリ。

一 商工業補習學校教員ノ養成機關ヲ設置シ一般實業補習學校教員ノ優遇ノ途ヲ講ズルコト

東京府ハ曩ニ農業補習學校教員養成所ヲ設置シ、其ノ成績顯著ナルモノアリト雖モ、東京市ヲ始メ管内市町村ニ存立スル商工業竝ニ女子補習學校ニ勤務スベキ多數ノ教員ハ未ダ養成セラレザル有様ナリ。之畢竟一時ノ機宜ニ過ギザルベク、此ノ状態ヲ以テ永ク放置スベキニアラザルガ故ニ、一方ニ於テハ各職業ニ精通シタル優良教員ヲ多數養成スルト同時ニ、他方其ノ待遇ヲ改善シテ專任教員ヲ増加スルニアラズンバ、斯教育ノ改善充實ハ得テ期スベカラズ。殊ニ府立商工業補習學校ガ現在兼任者ノミヲ以

テ經營シ、之ヲ遇スルコト極メテ薄キガ如キハ當ヲ得タルモノニアラズ。寧ロ斯教育ノ發展ヲ阻害スルモノト謂フベシ。是レ特ニ府立商工業補習學校ノ充實ヲ要望シテ已マザル所以ナリ。

一 實業補習學校ノ監督ヲ嚴ニスル事

東京府ハ大正七年以來實業補習教育ヲ準義務制トシ、詳細ナル訓令ヲ發シテ其ノ刷新ニ努メ來レリト雖モ、重要ナル事項ハ未ダ一般ニ實施セラルルノ運ニ至ラズ。就學事務ノ開始、專任教員ノ採用、生徒實習竝ニ養護上ノ設備等、何レモ行惱ミテ進行ノ遅々タルハ寔ニ遺憾ナリ。之一ハ府ノ監督機關不備ニシテ、充分ノ機能ヲ發揮シ得ザルニ基因スルモノノ如シ。斯教育ノ振興愈急務ナル時ニ當リ、此種機關ヲ充實シ、一層監督ヲ嚴ニシ、市町村當局ヲ督勵シ、以テ該訓令ノ實行ヲ促サレンコト切望ノ至リニ堪ヘズ。

四 東京市長ニ提出シタル意見書竝ニ理由書

實業補習教育改善ニ關スル意見

東京市ニ於ケル實業補習教育ハ貴當局不斷ノ御盡力ニ依リ相當可良ノ成績ヲ舉ゲツツアル様被存候得共深ク之ガ内容ヲ省察スルニ於テハ尙遺憾ノ點尠シトセズ而モ社會ノ進展ハ實業補習教育ノ改善充實ヲ須臾モ忽ニスルヲ許サザルモノアルニ鑑ミ本會ニ於テ之ガ調査研究ヲ行ヒタル結果就中左記諸項ノ實現ヲ急務トスルノ結論ニ到達致候

一、實業補習學校ノ組織ヲ可成の職業専門的ナラシメ以テ就學獎勵ノ方法ヲ講ズルコト

一、實業補習學校ニ於ケル教授訓育養護ノ方法施設ヲ改良シ設備ノ充實ヲ圖ルコト

一、實業補習學校教員ノ養成ニ努メ之ガ優遇ノ途ヲ講ズルコト
 一、實業補習學校ノ經營ヲ市ニ於テ統一シ以テ經營ノ方法ヲ改ムルコト
 何卒右諸點御詮議ノ上速カニ施設實行セラレンコトヲ切望シ別紙理由書竝ニ本問題
 ニ關スル本會ノ調査研究ヲ録セル參考書相添此段卑見及開陳候也

昭和三年六月二十一日

財團 東京市政調査會

會長 子爵 後藤 新平

東京市長 市來 乙彦 殿

添附書類

一、理由書

一、東京市政調査會調査「東京市ノ實業補習教育」

一、文部大臣ニ提出シタル建議書竝理由書寫

一、商工大臣ニ提出シタル意見書寫

一、東京府知事ニ提出シタル意見書竝理由書寫

理由

一、實業補習學校ノ組織ヲ可成的職業専門的ナラシメ以テ就學奨

勵ノ方法ヲ講ズルコト

現時ノ實業補習教育ガ一般ニ徹底セズ寧ロ輕視セラルル傾アル所以ノモノハ、前期
 ニ於テハ、教授ノ内容竝ニ其ノ程度區々トシテ統一ヲ缺クト共ニ、後期以上ニ於テハ職
 業科目ノ種類極メテ少ク、専門的學習ノ不便ナルニ基因スル所多シ。現在東京市内ニ
 於ケル實業補習學校トシテハ、或ハ府營アリ、或ハ市直營アリ、或ハ區營アリ、或ハ私營ア

リ。設立者ノ異ナルト共ニ組織經營ノ方法亦同ジカラズ不統一ヲ極ム。是ニ於テ市當局ハ去大正九年實業補習教育調査委員會ヲ設ケテ之ガ方針ヲ確立シ、爾來之ガ完成ニ努ムルトコロアリシモ、大震火災ノ爲メ大頓挫ヲ來シ、翌大正十三年再ビ調査委員會ヲ設ケテ解決ニ努力シタルモ、未ダ何等ノ實現ヲ見ルニ至ラズ。又市民ノ職業分布ト實業補習學校ニ於テ教授スル職業科トノ關係ヲ見ルニ、一區内ニ於テ一千人以上従業スル重要職業ハ、全市ヲ通ズレバ五十種ノ多キニ達スレドモ、實業補習學校ニ於テ組織的ニ教授スル後期課程以上ノ職業科ハ僅ニ十三種ニ過ギズ。斯ノ如クンバ如何ニシテ其ノ效果ヲ擧グルコトヲ得ン。實業補習學校ハ須ク之ヲ職業専門的ニ組織シ、且其ノ系統ヲ整へ、以テ生徒ノ要求ニ適應スル様努ムベキモノナリト思量ス。

教育内容ノ充實ハ、自ラ生徒ノ入學ヲ増加セシムル所以ナリト雖モ、此ノ他凡ユル手段ヲ盡シテ積極的運動ヲ試ミ、生徒ノ入學ヲ獎勵スルハ、現在ノ制度ニ於テハ當然講ズベキ方策ナリ。例へバ雇傭主ニ對シテハ斯教育ニ對スル理解ヲ促シ、卒業生優遇ノ途

ヲ講ゼシメ、卒業生ニ對シテハ檢定ニ應ジテ地位ノ上進ヲ圖ラシメ、希望者ニハ職業ヲ紹介スル等、之ヲ奨メントスレバ幾多適當ナル方法アルベシ。吾人ハ嘗テ故井上知事ガ親シク管下ノ實業補習學校ニ莅ミテ、職員生徒ヲ激勵スルヤ、職員生徒ノ精勵ヲ促シ、教育當局竝ニ實業家等ヲシテ頓ニ斯教育尊重ノ念ヲ起サシメタルノ事實ヲ回想シ、切ニ入學獎勵ノ爲メ適當ノ施設ヲ講ゼラレンコトヲ切望セザルヲ得ズ。殊ニ東京市ニ於ケル補習教育期ニアル青年男女ハ其ノ數約十萬ヲ算スルニ拘ラズ、現在入學セル者ハ僅ニ一萬人弱ニ過ギズ。以テ如何ニ入學獎勵ノ餘地ノ大ナルモノアルヤヲ知ルベシ。

一 實業補習學校ニ於ケル教授訓育養護ノ方法施設ヲ改良シ設備ノ充

實ヲ圖ルコト

學校ノ組織確立セズ、且職業専門的ナラザルガ故ニ、生徒ノ種類自ラ雜駁トナリ、爲メニ生徒ノ要求ニ合致セントスレバ、教授要目ノ編纂上頗ル困難ヲ來シ、優秀ナル教員ト

雖モ教授ノ目的ヲ完フスルハ容易ノ業ニアラザル状態ナリ。而カモ教員ノ多クハ、小學校ヨリ兼任セル者ナルヲ以テ専心補習教育ニ盡サシムルヲ得ザル境地ニアリ、教育上充分ノ効果ヲ舉グル能ハザルハ當然ノ歸結ナリトス。又生徒中ニハ年嵩ノ者アリ、從來ノ修養亦一定シ居ラズ。而カモ夜間短時間ノ授業ナルガ故ニ、訓育ノ點概ネ不徹底ニシテ實狀誠ニ默視シ難キモノアリ。最近體操教練ヲ加設スルモノ漸次増加シ來レリト雖モ、之寧ロ青年訓練所ノ關係ニ基ケルモノニシテ、必ズシモ生徒體育上ノ見地ヨリスルモノニアラザルガ如シ。加之、生徒身體ノ發育不良ニシテ、疾病缺陷ノ多キニモ拘ハラズ、從來養護方面ハ兎角顧ミラレザル傾向アリ。身體検査ノ如キモ一般ニ行ハレザルノミナラズ、縱令之ヲ實施スルモ其ノ成績ニ基ク養護上ノ努力ヲ缺如ス。若シ夫レ學校設備ニ至リテハ次第ニ整頓セラレツツアリト雖モ、之ヲ完備セル小學校ニ比スレバ到底同日ノ談ニアラズ。必要缺ク能ハザル實習教室、實習機械ヲ始メ、照明煖房ノ不完全ハ勿論、食堂ノ備スラ之ヲ有セザルモノ多シ。苟モ學校ヲ經營シ、教育ノ實

ヲ舉ゲントスル以上、斯ル不都合ナキ様速ニ之ガ改良充實ノ途ヲ講ゼザルベカラザルナリ。

一 實業補習學校教員ノ養成ニ努メ之ガ優遇ノ途ヲ講ズルコト

現時實業補習學校ニ於ケル實科教員ハ其ノ養成所出身者少キヲ以テ、一般ニ普通ノ實業學校出身者ヲ任用スト雖モ、之固ヨリ一時ノ便宜ニ出ヅルニ過ギザルノミナラズ、實業界ノ繁閑ニ伴ヒ需給關係ヲ紊サルル怖アリ。幸、東京市ニハ教員講習所ノ設アリ、現ニ専ラ小學校教員ノ養成ニ努ムレドモ、本講習所ニ若干ノ改善ヲ施シテ、實業補習學校教員ノ養成ヲモ併セ行フハ極メテ容易ノコトト信ズ。斯ノ如クシテ將來市ガ要求スル各種ノ職業ニ精通シタル優良教員ヲ多數得ルニ至ランニハ、斯教育ノ振興ニ資スル所大ナルモノアルベシ。且同時ニ教員優待ノ途ヲ講ジ、專任教員數ノ増加ヲ圖ルヲ必要トス。現在市立補習學校ニアリテハ、教員ノ配置並待遇ニ關シテハ、他ニ遜色ナシトスルモ、區營補習學校ニ至リテハ大部分兼任者ヲ以テ組織シ、之ヲ遇スルコト極メテ

薄ク、而カモ其ノ勤務狀態甚ダ過重ナリ。等シク市立ニシテ斯ノ如キ厚薄アルハ、決シテ當ヲ得タルモノト云フベカラズ。サレバ特ニ區營實業補習學校教員ノ充實竝ニ之ガ待遇ノ向上ヲ要望シテ已マズ。

一 實業補習學校ノ經營ヲ市ニ於テ統一シ以テ經營ノ方法ヲ改ムルコト

前數項ニ於テ述ベタルガ如ク、東京市ハ夙ニ實業補習教育經營ノ方針ヲ確立シ、之ニ依テ著々實績ヲ舉ゲ來リタリト雖モ、之ガ内容ヲ省察スルニ統一ヲ缺キ、市民ノ職業ニ適應セザルモノ尠カラズ。殊ニ東京府ハ大正七年以來實業補習教育ヲ準義務制ト爲シ、之ガ詳細ナル訓令ヲ發シタルコトアレドモ、其ノ重要ナル事項ハ、市ニ於テハ未ダ實施ノ運ニ至ラズ。是、一ハ府ノ監督機關不備ニシテ充分ノ機能ヲ發揮シ得ザルニ基因スルモノナルベキモ、一ハ市制度ノ複雑ナル、之ガ實行ヲ容易ナラシメザルモノアルニ因ル。之等ノ缺陷ヲ除去シ、以テ斯教育ノ發達ヲ圖ラントスレバ、先ヅ區營實業補習學校ヲ市ニ移管シ、同一ノ方針ニ基キテ全部ヲ經營スルニ如カズ。況ンヤ區營實業補習

學校ニ要スル經費ハ、臨時費ヲ合スルモ年額僅ニ二十四萬圓ニ過ギズ、東京市ガ小學校教員給ヲ統一シタル際ニ經驗シタルガ如キ、困難ナル事情ヲモ件ハザルニ於テヤ。京都市ノ學區ニハ、學區ノ經營ニ係ル、小規模ノ小學校補習科類似ノ女子實業補習學校アリト雖モ、他ノ大都市ハ悉ク之ヲ市ニ於テ直營スルノ實狀ニ見ルモ、略現時ノ大勢ヲ察知スルヲ得ベシ。敢テ當局ノ英斷ヲ望ム所以ナリ。

五 京都、大阪、横濱、神戸、名古屋ノ各市長ニ
差出シタル書狀

實業補習教育改善ニ關スル件

肅 啓

東京市政調査會ハ都市實業補習教育ノ改善振興ヲ圖ル爲メ適當ノ方策ヲ確立スルノ要アルニ鑑ミ東京市ヲ基礎トシテ之ガ調査研究ニ從事罷在候處這回之ガ成案ヲ得候ニ付テハ此度東京市竝ニ關係當局ニ對シ別紙ノ如キ改善意見ヲ開陳致置候

吾邦諸大都市ニ於ケル斯教育ノ現狀ヲ比較考查スレバ別冊(本會調査書東京市ノ實業補習教育)ニ記述致候如ク固ヨリ各特徴アリテ存スト雖モ之ヲ概觀スルニ東京市ニ於ケル實業補習教育ニ於テ施設改善ヲ必要トスル事項ハ又貴市ニ於テモ適應スル所尠カラザルベキヲ信ジ申候

就テハ前記本會調査書竝ニ政府及東京府市當局ニ提出シタル意見書等御參考迄ニ貴
覽ニ供シ申候間何卒貴市實業補習教育ノ改善充實ノ資ニ供セラレ度切望仕候 敬具

昭和三年六月二十一日

財團
法人
東京市政調査會

專務理事
前 田 多 門

| | |
|-------|-----------|
| 京都市長 | 土岐嘉平殿 |
| 大阪市長 | 關 一殿 |
| 橫濱市長 | 有 吉 忠 一殿 |
| 神戸市長 | 黑 瀨 弘 志 殿 |
| 名古屋市長 | 大 岩 勇 夫 殿 |

(各通)

送 附 書 類

- 一、東京市政調査會調査「東京市ノ實業補習教育」
- 一、文部大臣ニ提出シタル建議書竝ニ理由書寫

- 一、商工大臣ニ提出シタル意見書寫
- 一、東京府知事ニ提出シタル意見書竝ニ理由書寫
- 一、東京市長ニ提出シタル意見書竝ニ理由書寫

